

2021 年度 第 4 回理事会議事録

I. 会議名 : 2021 年度 (公社) 日本地すべり学会 第 4 回理事会

II. 開催日時 : 2022 年 3 月 11 日 (金) 14 時 30 分～16 時 30 分

III. 開催場所 : WEB 会議

IV. 出席者 : 理事出席 17 名, 監事出席 1 名, その他 3 名

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
理事	浅野 志穂	×	理事	太田 英将	○	理事	富田 陽子	○
理事	石丸 聡	○	理事	加藤 猛士	○	理事	中里 裕臣	○
理事	岩橋 純子	×	理事	笹原 克夫	○	理事	中村 真也	○
理事	宇次原 雅之	○	理事	佐藤 剛	×	理事	平松 晋也	○
理事	榎田 充哉	○	理事	佐藤 浩	○	理事	藤井 俊逸	○
理事	大河原 正文	○	理事	柴崎 宣之	○	理事	渡部 直喜	○
理事	小山内 信智	○	理事	高山 陶子	○	(理事 17 名, 定足数 11 名)		

監事	今泉 文寿	×	監事	相楽 渉	○	(監事 1 名)		
----	-------	---	----	------	---	----------	--	--

事務局	鈴木 英則	選挙管理委員長	田中 龍一	(その他 2 名)
ICL 委員長	檜垣 大助	—	—	

○理事会開始時における理事の出席数は 15 名。定足数 11 名 (理事の過半数) を満たし理事会は成立。

○報告事項-5 の説明者である中村理事が、所要につき理事会を途中で退席することから、審議事項の前に報告事項-5 を行う。中村理事は、報告事項-5 終了後に退席 (出席理事 14 名)。

○藤井理事、小山内理事は、審議事項-1 の途中より参加 (出席理事 16 名)。

○渡部理事は、報告事項-2 の途中で退席 (出席理事 15 名)。

○議事録署名人は、平松会長、相楽監事。

<議長あいさつ>

- ・平松会長が開会のあいさつを行った。

<議事録の確認>

柴崎理事より、第3回 理事会 議事録の内容は理事へ確認済みであることの説明が行われた。

I 報告事項

5. 福岡大会概要

中村理事より福岡大会の概要について報告がなされた。報告後の理事からの意見および質疑応答は以下の通りである。

・オンラインも取り入れることも視野にしているとのことだが、参加費を安めに考えているのか？、
⇒ハイブリッド（現地開催+オンライン開催）により現地開催に比べて手間を要し、現地開催のみの参加費用に比べて若干高くなりそうである。他学会の研究発表会でも同様の傾向が見受けられる。

I 審議事項

1. 2022 年度事業計画

各部長、各支部長、各委員長、担当理事より次年度の事業計画についてそれぞれ説明が行われた。それぞれの長が理事会へ参加していない部・委員会・支部については、以下の理事が報告した。

- ・表彰委員会、九州支部：柴崎理事
- ・関東支部：中里副会長
- ・中部支部：平松会長

なお、事業計画書に記載されていない内容、事業計画書から変更した内容は、以下の通りである。

・関西支部の)第1回運営委員会：は4月7日、研究技術集会は6/27に決定した。総会は7月中に開催の予定である。

○中村理事 退席（理事14名）。

○藤井理事 出席（理事15名）

○小山内理事 出席（理事16名）

説明後の理事から出された意見およびその後の質疑・応答は以下の通りである。

・関東支部の事業計画で災害調査を行うことになっているが、学会としての災害調査は研究調査部が所管の「土砂災害緊急調査細則」に基づき「土砂災害緊急対応委員会」を設置して行うことになっている。支部の活動に記載する場合は、地すべり学会の全体の枠組みも考慮した記載が良いのではないか？。

⇒災害調査団については、本部で決定し支部が対応することが良いと考えている。例えば、関

東での災害であれば、関東支部が対応する。これらの対応については、本部と支部の連絡を密にして活動を行っていただきたい。

⇒部の災害検討のマネジメントをどこかの部に記載すべきである。研究調査部に記載するべきか。

⇒研究調査部で記載方法を検討する。

- ・審議の結果、賛成 16 票、反対 0 票で承認された。

2. 2022 年度収支予算

柴崎理事より、資料に基づき、2022 年度の収支予算について説明が行われた。説明後の理事からだされた意見およびその後の質疑応答は以下の通りである。

- ・福岡大会はハイブリット前提での開催となるか？。

⇒現地開催を優先として、オンラインでも参加できるようにしたいと考えたい。詳細は、今後検討していくことになる。

- ・審議の結果、賛成 16 票、反対 0 票で承認された。

3. 2022・2023 年度の社員総会と理事会の日程

柴崎理事より、資料に基づき、2022・2023 年度の社員総会と理事会の日程について説明が行われた。

- ・理事からの意見・質問は特になかった。審議の結果、賛成 16 票、反対 0 票で承認された。

4. 2022 年度社員総会の議題、実施形態

柴崎理事より、資料に基づき、2022 年度社員総会の議題・実施形態の進め方について説明が行われた。

- ・理事からの意見・質問は特になかった。審議の結果、賛成 16 票、反対 0 票で承認された。

4. 役員候補者推薦細則の改定

平松理事より、役員候補者推薦細則の「第 4 条 (5)」を運営実態実態に合わせて改訂したいとの説明がなされた。改定前後の記載内容は以下の通りである。

(改定前)

第 4 条 (5) 監事は理事経験者又は専門的能力を有する者から選び、適正な監督や助言が行われるようにすること。

(改定後)

第 4 条 (5) 監事は学会活動に関する識見又は専門的能力を有する者から選び、適正な監督や助言が行われるようにすること。

・理事からの意見、質問は特になかった。審議の結果、賛成 16 票、反対 0 票で承認された。

5. ICL 委員会の国際部への統合

佐藤理事より WLF5 開催に向けて設置された ICL 委員会について、WLF5 が終了したので、ICL 委員会を廃止し、今後、ICL に関する業務は、国際部で行うことにしたいとの説明がなされた。説明後の理事からの意見・質問は特になかった。

・ICL 委員会を廃止することについて、審議の結果、賛成 16 票、反対 0 票で承認された。

・ICL に関する業務を国際部で行うことについて、審議の結果、賛成 16 票、反対 0 票で承認された。

6. 共催や後援の依頼への対応

鈴木事務局長より、資料に基づき説明が行われた。

・理事からの意見・質問は特になく、審議の結果、賛成 16 票、反対 0 票で承認された。

審議後、理事より他学会より地すべり学会に金額負担のない共催を依頼された場合は、金額負担がないということ、文書で残しておくべきであるという意見があった。

7. 入退会者状況

鈴木事務局長より、資料に基づき、地すべり学会への入退会状況について説明が行われた。理事から出された意見およびその後の質疑応答は以下の通りである。

・毎年、研究発表会開催前に会員が増加している。増えた会員がそのまま継続してもらえような会員サービスが欲しい。

入会者について審議の結果、賛成 16 票、反対 0 票で承認された。

II 意見交換

1. 学会創立 60 周年記念事業

宇次原理事より、資料に基づいて以下の説明が行われた。

・10 年毎に何かのイベントを行い続けることは大変であるという意見もあったので、会員が負担を感じない範囲で 60 周年記念事業を行いたいと考えている。事業として、例えば、50 周年記念で作った年表を更新して研究発表会で公開する等の案がある。

説明後に理事からだされた意見は、以下の通りである。

・記念行事として、シンポジウムを開催し、50 周年記念で作成した年表を更新することに賛成である。

・年表を 10 年毎に更新することは、大きな苦勞をせずにできそうである。しかし、仮に、約 40

年後の地すべり学会 100 周年の時に 50 年分の年表を更新するのは手間も費用も必要になるだろう。年表を作らないまでも PDF で残すことも考えられる。

・我々は自然現象を相手にしているので、10 年毎に年表を作成し、その時々々の自然現象を記録として残し、後世に継承していくことは重要であると考えている。

III 報告事項

1. 役員選挙結果

田中選挙管理委員長より、3 月 4 日に 2022・2023 年度日本地すべり学会役員選挙の開票を行ったところ、役員候補者全員が、役員となるのに必要な、有効投票数の過半数 36 票以上 を確保していることを確認したとの報告がなされた。

- ・有権者数 ; 73 票
- ・投票数 ; 71 票
- ・有効投票数 ; 71 票
- ・投票率 ; 97.3%

報告後、理事からだされた意見およびその後の質疑・応答は、以下の通りである。

・代議員より信任だと思ってチェックしようとしたら不信任であったという話を聞いた。間違いの起こらないよう工夫はできないか？

⇒地すべり学会は不信任投票になっている、選挙管理委員長より、不信任投票であることを何度も周知はしているものの、毎回の選挙で、1 人 2 人は間違える人がいる。

・一度、間違えて投票してしまうと修正できないのか？

⇒確定してしまうと、修正できない。

⇒間違えて投票してしまった場合に備えて、投票締め切りまで、投票を修正できるようにできないか検討して欲しい。

○渡部理事 退席

2. アウトリーチ活動の体制強化

平松会長より、現在、アウトリーチ担当の藤井理事に加え、以下の 2 名の方も、2022 年 3 月からアウトリーチ活動に参加いただくことになったとの報告がなされた。

- ・太田英将理事（関西支部長兼務）
- ・岩橋純子理事（防災学術連携体窓口兼務）

特に理事からの意見・質問はなかった。

3. 学会のメールサーバと Web サーバの委託先変更

鈴木事務局長より、資料に基づいて地すべり学会のメールサーバおよび Web サーバの委託変更について報告がなされた。

特に理事からの意見・質問はなかった。

4. BIM/CIM ネットワーク開催報告

富田理事より、資料に基づいてBIM/CIMネットワークの開催状況について報告がなされた。説明後に理事からだされた意見およびその後の質疑・応答は、以下の通りである。

・担当オーガナイザーは輪番にしているのか

⇒1回目、2回目は土研でおこなうが、その後は順番で行うことを予定している。

・講習会等の活動を引き続きお願いしたい。

⇒承知した。

5. その他

(1) 環太平洋インタープリメント in 台湾への参加呼びかけ

平松会長より、10月に環太平洋インタープリメント in 台湾が開催される。口頭発表の〆切は4月末、ポスター発表の〆切は6月末なので、興味のある人は参加して欲しい。

6. その他

特になし

以上

議 長 平松 晋也 ㊟

議事録署名人 相楽 渉 ㊟